

加古川のこれからの川づくりに関する説明会 (皆様からお寄せいただきましたご意見について)

- 日 時：平成21年10月17日(土曜日) 10:00～12:00
- 場 所：西脇市生涯まちづくりセンター

○参加者（西脇市・村上）

西脇市の村上と申します。

先ほど河川整備の内容についてということで、治水の項目でお聞きしたんですけども、下流地域につきましては、こういう状況であれからこういう工種でもって整備を図る、また中流地域についてはこういう工種でもって整備を図っていくと。またそして最後に上流地区につきましては、同じようにこういう工種で整備を図っていくという話をお聞きしたところですが、上流地域につきましては加東市どまりとなっていると思とるんです。それで、加東市以北、いわゆる篠山川、佐治川の合流地点までの状況についてお聞きします。

○参加者（西脇市・河野）

西脇市の河野といいます。意見を3点ほど言わせていただきます。

1点は、今お話がありましたように、加古川は一本なのに、県と国とがこういう計画をするときには、もっともっと連携をとって調査、計画していただきたい。杉原川なんか水量がかなり減ってますし、加美町とか山南町では水なし川が出ているような状況がありますので、その辺の状況も踏まえて南のほうの治水とかそういう点に、もっともっと連携をとった上でやっていただきたいと。これが1点です。

2つ目は、カワウの話が全く出てこなかったのですが、実はカワウの被害というのは今、外来魚どころではないのですね。したがって、カワウの加古川にいる生き物に対する被害について、どういうふうな対応するかというのをぜひ早急につくっていただきたいというのが2点目の意見です。

3点目は水質の方なんです。水質に関して、有害物質とかそういう点についての調査はされているのですが、今、栄養過多になって水中植物が非常に増えているということがあるんですよ。水中植物が必要以上にふえると、そこにゴミがたまって、それがヘドロになると。あるいは、魚の産卵場所、小石に産卵するものなんか水草によって産卵しても定着できないという状況もありますので、その辺の水質に関して栄養について、例えば窒素とかリンとか下水の関係でそういうのがふえていると聞きますし、下流のほうではカルシウムが非常に多くなって、丸っこいハイジャコとかそういうのがあるように聞きますので、その辺の調査対応もぜひ今後やっていただければと思っております。

以上です。

○参加者（西脇市・小西池）

失礼します。私は西脇市黒田庄町福地から来ました。この会場の3分の1は、私たちの地区から来ています。平成16年の水害で田畑の藁や、汚物等家の庭や周りに流れ込み、玄関ドア上10cmのところ迄水没した家や、ふすま2分の1迄水没した家、又見る物すべて瓦礫の山でした。でも、今だに手つかずの状態です。

去年の防災セミナーにも出席させていただきましたが、その時兵庫県の所長さんがお見えになっていまして、西脇市の被災地は工事を完了しましたと申されたので、「エッ!!何で?」と思い、何か意見のある人はと聞かれた時、福地はそのまま手つかずです。何もしてもらっていませんと、その時の現状を話しましたが、「言ったら、まああその川は上からと下からの流れの入り込んだしにくいとこやからな、アハハ」で済んでしまい、納得出来ませんでした。

私たちは今日、「加古川のこれからの川づくりに関する説明会」ということで、一抹の期待を持って出席させていただきました。でも、管轄ちがいと聞いて、何とかお願いして、県との問題があると思いますが、力をかしていただきたいと思い、お願いします。早急に堤防の穴があいている箇所とか、川の水の流れの状態を、今一度調査に来て頂きたいと思い意見を述べさせていただきました。その時痛めた足、心の傷も今だに治ることはありません。

何とぞよろしくお願いします。

○参加者（西脇市・村上）

先ほどのに関連するのですが、まずその前にこの河川計画の今後の20年、30年と書いてあるのですが、20年、30年といってもすごく長過ぎないかなと。現実問題として、先ほどお願いされましたように、黒田庄地区でも何カ村かは水についております。したがって、20年、30年というのは僕らからしたらちょっと長過ぎるし、現実にはこの問題はそのままほうっておかれるのかなと。ほんで、あの、僕らのほうはいろんな意見が出ましたけど、鬮龍灘をつぶしてくれとか勝手なことはよく言いましたものですが、現実にはあの災害の地域の住民にとったら、20年、30年と言ったらとてつもなく長く感じるわけです。

そして、黒田庄でも、先ほど福地も言いましたけれども、黒田庄の中で何カ村かは水害に遭って、大変ご苦労された方がたくさんおられますので、今日は兵庫県の関係者が来ておられないのは非常に残念なのですが、あのその辺も発言させていただいて、兵庫県のほうにも伝わらないかなということで発言させていただきました。

以上です。

○参加者（加東市・西山）

加東市の多井田の西山でございます。ちょっとお尋ねします。

この資料の最後のところの加古川流域委員会中間とりまとめの中の「（5）鬮龍灘について、鬮龍灘を保全し、鬮龍灘の流れや景観に配慮しながら、露岩部以外の河道を一部整正する」とありますけど、資料の17ページ、18ページの計画というのかな、これは最後のところには入っているわけですか。整備の内容について、これはもう計画して実施を今からしていくと、17ページ、18ページの部分については決まっているということですか。この文については。

【説明会当日に意見記入用紙に記入いただき、回収箱へ入れていただいたご意見】

○参加者

西脇市民が河川法に基づく説明会の実施したことに利用されただけではないですか。加東市でしまいと聞いていたが、なぜ加東市以南の説明をここでしたのか。おかしいのではないのか。

■日 時：平成21年10月17日(土曜日) 15:00～17:00

■場 所：小野市商工会議所

○参加者（加東市・磯貝）

加東市の磯貝と申します。治水の件についてお尋ねします。

冒頭の説明であったのですが、ご存じのとおり平成16年台風被害という形で、加東市においても大変な被害がございました。この中で特に加東市に関するところで17ページ、18ページの社・河合地区、滝野・多井地区、多井地区、この3点について出ているのですが、これは治水の件については、今後変更することがありますという注釈がついておるのですが、これまで加東市においてはそういう災害で地域住民も痛い目に遭いましたので、非常にこの件に関しましては関心がございます。そういう中で、これまで市のほうも姫路河川国道事務所のほうへ、要望書とかいろいろんな形での要請をされてきたというようなことを聞いております。

それでお尋ねしたいのは、民主党の政権になりまして、今日のご説明は国土交通省の役人さん、職員さんだとは思いますが、政治主導という形の中でマスメディアを今にぎわせております。今後こういう要望については、姫路河川国道事務所を通じて同じように継続しながらやっていくのか、それとも例えばこの地区でしたら高橋昭一さん、民主党の議員さんが出られましたので、そういうほうへ言ったほうが早いのか、今後そういう形の地域の要望についてどう取り組まれていくのか、その件を1点お尋ねしたいと。

それから、2点目については、今後検討していくかとか、取り組んでまいりたいと思っておりますか、一体となった整備を行う、地区の堤防整備を行う、またやっていきたいと、そういうようなご説明がございました。これは日にち的にはどれほどのところまである程度確定していつているのか。県が決められた上での枠組みの中に既に入っているのか、流域検討委員会のそういう諮問の経過もありますし、当然財政上の問題もあるとは思いますが、ある程度そういう目安がいついつまでの期限にやり遂げたいとかそういう点が、こちらの説明では、行う、検討していききたいとかでどうも期限がわかりませんので、ある程度の目安を既に持たれているのであれば、お答えいただきたいと。

この2点をお尋ねいたします。以上です。

○参加者（加東市・高瀬）

加東市から来ました高瀬です。

今おっしゃった分で、年限は30年とおっしゃってましたけれども、以前10年ほど自民党の先生のときをお願いをしておるのですけれども、要望はまだいかないで、あと30年と言いましたら、私らの生きとる間にはちょっとできないという点もあるんです。一級河川で、加古川よりもその支川ですね。支川も見直ししていただいて、前からずっと要望を出してきた県並びに県民局、それから市、あらゆるところへお願いはしています。やっぱり一級河川も支川で一級河川もありますので、そこらも30年の中へ入れていただいて、今、私らの年代ではちょっとならんかもしれませんが、一日でも早くそういう姿勢を持っていただければかということで質問したいです。

○参加者（小野市・長尾）

小野市の長尾と申します。

パワーポイント11ページの上流地区のところで、東条川との合流地点、東条川の右岸、加古川の左岸になりますね。ここに築堤ということで線が入れてあるんです。それとパワーポイント16ページの社・河合地区の26.6kmから29kmの場所がずれるのですけれども、このあたりはどのような計画で整備されるのかお聞きしたいと。

それと、私たちの会社が合流地点のところにありまして、26.6kmといたらちょっと外れているのかなという気がするので、そのあたり、微妙な場所なのですけれども、教えていただきたいと思います。

それと、もう1点なんです。水位の配信サービスをやっておられますけれども、今回台風18号とか先日の佐用町の水害とかのときに、全然つながらないような状況になっておりました。それから、佐用町のちょっと前で、加古川で水位が上がった日があったのですけれども、板波の水位が配信されなかった。配信されたのですけど、かなりおくれた時間に配信されています。そのあたり、ちょっとサービス体制が貧弱かなと思いますので、そこらあたりは改善をお願いしたいと思います。

以上です。

○参加者（加東市・住民）

加東市の大門から来ました。

先だって平成16年の台風で、大門橋の端に住んでいるのですが、柱に水が入って通行どめになる用地で、端に家があって怖い目に。一応、村として避難命令が出たぐらいになっているのですが、私がこっちへ来て50年、そのままで何遍もそういうことがあっても、その一角、大門だけが残ってます。お宮さんの端。川向こうの小野市は完璧になり、上田のところまで堤防ができていて、大門の住宅があるところだけ残っているのですが、水が出るたびにみんな、「ああ」と言いながら住んできましたが、どういようになっているのですか。その付近はお宮さんがあって、端に住んでいる者は倉庫へ水が入ってお米を失敗して、かなり消防が出てしたのですが、一応どういようになっているのか聞きたいと思います。

○参加者（加東市・磯貝）

加東市の磯貝です。

先ほども質問させていただいてちょっと遠慮しておったのですが、今、大門の方が言われましたように、滝野・多井地区の滝見橋は古い橋がかかるとるわけです。当然、当局の方はご存じだと思います。いろんな要望が市を通じていろんな形で行ってます。加東市は住みよさランキング2位になりましたが、こういう古い橋は住民サイドには危険な、危ない橋というように形で被災されたと、そういう経過がございます。

そういう形の中で、個々のことを言ったらいけないのですが、この16年にこれだけの被害があって、30年先という形のお話を聞けば、はっきり申し上げて、「ああ、お役人仕事やな、やっばり30年先、どないなんのや」と、ここに来られるとる方はほとんどが生命と財産が危ない、現実にはそういう危険に遭われた中で関心を持たれて、水辺の植物やとか動物、魚類も確かに大事です

が、それ以前にこの危ない、危険、命をさらしたこのような状態を何とか早いこと解決してほしいと、そういうことの関心で来られとる人が私はほとんどだと思います。そういう中では、30年先、役所の仕事だとは言いながら、やはりそれを踏まえながら3年とか5年とか、大門橋であればここ3年とか5年とかの間に、ある程度限定した上で返事ができるような準備委員会もあると思いますが、お役人さん方もそういう形の中ではもっと親身になった本当の立場で考えていただきたいと、これだけ1つ要望をお願いして質問を終わります。

以上です。

【説明会当日に意見記入用紙に記入いただき、回収箱へ入れていただいたご意見】

○参加者（加東市・住民）

加古川、1級吉馬川、川そこの土砂の整備を県議、市会議県北播局へ依頼しているがいまだ整備ができない。回答は文紙でお願いしたい。

■日 時：平成21年10月18日（日曜日） 15:00～17:00

■場 所：加古川市立勤労会館

○参加者（西脇市・角田）

失礼いたします。私、住所は西脇市黒田庄町の福地というところです。生まれも育ちも福地でございまして、現在では自称川の主と自分では言っております。と申しますのは、ことし11月になりますと78歳になります。物心がつきましてから約70年間堤防沿いに住居がありまして、もう朝晩雨が降っても照ってもですね、子どもころは川で遊んで回った一人でございます。そういう意味におきまして、大戦後3度の床上浸水を受けておりまして、それはもう今まで手がつけようがなかったのか、それとも地域の力が弱かったのか、または国・県の関心が薄かったのか、そういうことを今でも思っておりますが。

台風が来ますと、加古川の支流で門柳地域の水が全部福地にかかってくるのです。それとともに、氷上町のほうに降りました雨のために本川が増水しますと、水門から逆流してきます。ですから、堤防があるのですけれども役に立ちません。その水のふえ方の速度ですけれども、16年の23号台風の時には1時間に約1.5mの増水がありました。それで、家財道具をもう片付けるのが必死であります。床上まで増水してきますと、もう2階に上がって朝まで水が引くのを待つと、そういう状況であります。

最近では関係者の体験もお聞きしましたがけれども、堤防がこのままでは決壊するのではないかと、そういう心配もいただいております。ですから、門柳川から井戸橋下流までの水門構造では、ただ形のあるだけで、洪水時には実際役に立っておりません。ふだんの排水はいたしますけれども、そういうことになっております。それで、全面改修が必要でありますことを進言しておきます。

なぜかと言いますと、確か戦後35年ごろから山の木が少なくなりまして、植林をせなならんということで植林をいっせいにしました。それはスギとヒノキばかりを植えまして、広葉樹を全部切り倒して、そういう状態ですので山には保水力がありません。山の地面はガラガラで落ち葉な

んかはないんです。ですから、そういう状態になってくると思うのですけれども。

そういうことをごさいますて、最後になりましたけれども、そういう河川改修のことにつきまして実地調査などあります場合、または図面上の点検も含めまして、私僭越ではございますがぜひ参加させていただきたく思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○参加者（加東市・芹生）

次、よろしいですか。加東市の鬮龍灘の近くから来ました、芹生と申します。

何か鬮龍灘のことはよく話題になりますけれども。昨日も会場、こういう会場で小野でやっておられましたんですね。どなたか、いろいろ発表なさったかもしれませんしね、ちょっと私も住民としては準備不足かもしれませんので、あれなんですけれども。もっと、こんな言うたら大変失礼かもしれませんけれども、下流の方、加古川とかの方が大勢いらっしゃるかと思って、えらいきょうは人少ないからちょっと寂しいなという気がしましたのですけれども。きょうも神戸新聞に挟んでありました、兵庫県の何とかの広報、あの後ろに書いてありましたので、北版か、北版のページに書いてありましたので、それをちょっとけさ見まして、ちょっと加古川に来る用事がありましたのでついでに寄せてもうたんです。ついでって大変失礼ですけれども、寄せてもらった次第です。

この加古川の川ですね、滝野から高砂までの滝野川、それから滝野から北側の田高川ですね、そういうことで、滝野のところも特に注目されますけれども。川に親しむということは昔からすごくよく言われてましたのですけれども、最近では実際川へ行って魚をとったり、あるいは川で洗濯したり、あるいは農業の人だったら、もちろん治水もありますし、牛を洗ったり、それこそ川との関わりがすごく多かったですけれども、ほとんど、こんなこと言うたら非常に悪い言い方ですけれども、用水路のようになってしまっているという、加古川の川の魚を捕ったりいろいろと川と親しむということではなくて、用水路のようになっていく。もちろん治水の意味では用水路が一番安全かもしれませんけれども。

特に滝野の場合は鬮龍灘がありますけれども、それが観光としてのイメージよりも、むしろこれから先だったら水と親しむというようなイメージに移っていく必要があるのではないかと思います。といいますのは、観光という、昭和38年が境だったのですけれども、そのときにホテルが大火事がいきまして二人亡くなるという非常に大きな痛ましい火災事故がありました。ちょうどそのときにアユがめっきりとれなくなりました。

それから、もう一つはレジャーの形が違ってきまして、昼の日中から旅館がありまして三味線とかがチャンチャラチャンチャラ弾かれると、そういうようなレジャーから、東条湖とかあるいは河川を利用したとか、あるいはまた播磨中央公園であるとか、加古川の河川敷を利用して、市民でみんなで親しむというふうなレジャー、レジャーというたら何かちょっと遊びみたいに聞こえますけれども、いろいろ自然と親しむというふうな観光というか、そういうイメージが変わってきまして、いわゆる滝野の鬮龍灘も名所・旧跡の観光地というイメージはほとんどつぶれてしまいましたよね。今言いましたように、アユがとれなくなったりしてから旅館をやめたということと、それからレジャーの形が違ってしまって、それは昭和38年ですけれども。

そういうことがありましたけれども、今後のイメージとしましては、やっぱり水と親しむとい

うことは一番キーポイントになってくると思います。その意味からしましたら、特に西脇のほうの人は、鬮龍灘は岩がいっぱいあるから、あの岩をみんなとってまえと、そしたら水がさっと流れるわというような荒っぽい意見もあるわけですけれども、一部に、川の左岸をくりぬいてということがありましたけれども、今でさえ、近辺の水量が、昔より約30cmほど少なくなっており、「一道の飛瀧 地を劈きて 開き・・・」（梁川星巖）というような壮大な風光が見られなくなります。むしろ加古川全体を、鬮龍灘の川下のほうの掘削をしていただいて、それから護岸整備していただいたら、それで十分だと思います。鬮龍灘の下側に広場がありますけれども、その広場は常時水に浸かる広場というふうに地元でも理解しておりますので、それは差し支えございません。ただ、その都度、右岸、西側の一部を掘削していただいて護岸整備をつくっていただいたら十分だと思うんです。あの岩は、そのままできるだけ残しておいたほうが、それでも安全面は保証されると思うんです。

多分、この資料を見ましたけれども、掘削するという意見がどれだけの方がどういう形で出されたかちょっとわかりませんが、あれはする必要はないのではないかと思います。それよりも、掘削と。それから、向こうに橋がありますでしょう。あの橋の影響はないんです。昭和4年に建てられた滝見橋という橋ですけれども、その橋は別に大して影響ないと思います。あのつけかえ工事ありますけれども、つけかえする必要はないのではないかと地元ではみんなそう思っています。一部、つけかえしようという意見の人もありますけれどもね。何よりも川の、スムーズに流れるように川底の整備というのが滝野周辺においてはポイントではないかと思います。

なお、加古川のほうの人がここには多分おられると思うのですが、加古川市内のほうの人がおられると思うのですけれども、加古川の川を、水と親しむというふうなイメージの広場づくり、加古川の河川敷の広場づくりとか親しむような機会をつくって、水とともに、水というのは非常に重要なものですので、そういう考え方ももっともっと考えていただいたらというふうに思います。何かとりとめのない意見ですけれども。

(説明会の終了後に皆様からお寄せいただきましたご意見について)

- 意見提出期間：平成21年10月19日（月曜日）～平成21年11月18日（水曜日）
- 意見提出方法：電子メール、FAX、郵送

○提出者（加東市・村上）

前略、先日17日(土)西脇市での説明会、大変参考になりました。有り難うございました。以下は、緊急要望、23号台風洪水で多くの家屋が床上浸水しました。そこで要望ですが、西脇へそ公園駅より上流約200mのところ福地南水門があり、向い西側に土砂が堆積しております。1ヶ所は除去されましたがもう1ヶ所もすぐ除去とのことでしたが、4年近くになります。今だに除去されていません。早急をお願いします。その他、先月の長雨で加古川が増水し水門から逆流して多くの水田が浸水しました。又、水門より下流の掘削も検討くださいますようよろしくお願い致します。乱筆で失礼します。

○提出者

加古川大門橋周辺（加東市大門地区）の河川の状況をご理解いただき早急に安全な堤防対策を

お願いいたします。平成16年の台風23号は、加古川周辺に居住する事の危険を感じさせました。支流との合流を重ね、未曾有の水量で大門橋を襲ってきました。田畑、民家を浸水させ、避難命令が発令され生命の危険を感じる事態にまで発展いたしました。大門橋横の神社では浸水により境内が埋没し、社殿が傾き去年社殿の移転まで行う事態となりました。この台風以降、西脇周辺を始め、小野、加古川周辺で川底の掘削工事等行われていますが、このような被害を受けた大門周辺では何の対策もとられていないのが現状です。

もし近日同様な台風が訪れると、間違いなく生命を奪う大被害を被ることは必然であり、その前に早急に安全な川作りをしていただけますようお願い致します。

○提出者（西脇市・角田）

自然が豊かな地域で、総合的な活性化をめざすその第一は、水害対策が重要と存じます。その理由として、水害対策は一部の地域と言えど、その弊害は地域のイメージダウン及び個人や地域の財産に大変な損害が及ぼされ、又、行政はその後手対策に翻弄され、災害以前の先行投資よりも数倍の資金を要し、尚、人権侵害も併発するという全く取り返しが付かない事態を引き起こす事になるからです。

一方、人間関係で一番大切な事は、いずれに於いても信頼関係が常識ですが、一旦水害になりますと、例えば、畜産業に最も大切な稲藁が殆んどダメになり、全く理想に反する事態も発生します。その原因は山林の荒廃と最近では上流の都市化等で河川の水位が急上昇する事、これは人災と言えるのではないのでしょうか。

それに関する対策の目標は何よりも先に、上下水道が完備された所を優先して河床の掘削を行う等の親水性も特に重要で、またそれが格差の是正や活性化に貢献できると断言しても過言ではないと存じます。

特に、例えば西脇市の黒田庄町福地地域は、JRのへそ公園駅と黒田庄駅の丁度中間地に位置し、加古川本流や門柳地域及び津万井や岡地域を活用した散策等に適しており、県道バイパスや国道を通じた交流を含めての人口増加で活性化を計る事は、市全体から見聞しても最適な地域である事は誰しも認める所と存じます。

しかし一方、農業全体の計画は、すでに限界が見えており、年に一度の米作主体の収益等では、特に地域性の障害もあり、どうしても自主的や総合的な活性化には全く無理が生じるのではないのでしょうか。

いずれにしましても、地域の自立と活性化には、先ず人口の増加が基本であり、それに付随して土地利用が発生して初めてそれらの目標が達成する事は、いずれの地域でも異論は無い筈であります。

要するに結論は、当地域で経済面等を重視するならば、これからは、かけがえのない自然を活用することこそ、子孫に対する希望も発生するものと存じる次第です。

○提出者

説明会全体の印象として、説明者の説得力とか熱意というものが感じられなかった。

資料について、口頭で説明を付け加えておられた内容を資料中に記述すべき。例えば、「堤防点検」ということも含め、具体的な実施内容を記述すべき。管理者としての姿勢をアピールする

チャンスであったはず。

○提出者

加東市河合地区は、築堤を掘削すれば治水できると思うので、橋梁改築工事が後になってもさしつかえないので早く計画・実施してほしい。（私個人の意見）

加東市大門地区に住する者と相談する場を作りたいので設計図をもらいたい。必要なときは流域委員の説明指導も受けたい。地域全員（大門）の賛成・協力が得られるようにしたい。